「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿とは？」

２０１８．１０．２９　大分県教育委員会

『大きくな～れ』と、自分の苗に水やり

苗を植えるための土作り

一人ずつ地域の店のおじさんから苗を購入

CASE 3

5歳児

自分で育てるんだもん

（幼児の実態）

「去年の年長さんが育てたように自分たちもやってみたい」と、事前の話し合いにも積極的に参加する様子が見られた5歳児。ピーマンが苦手な子どもが「ピーマンにしよう」「家族みんなで食べたいから、ミニトマトにしよう」等、保育者や友達と話し合いながら野菜を決めていきました。

種苗店で、何と言って購入するのかを練習したり、苗を持って帰るための入れ物も自分で作ったりして、買い物の日を迎えています。

この活動が始まる状況をつくるため、園では四月から、夏野菜に興味が向くように、食堂に掲示してある三大栄養素の表に気付かせたり、絵本の読み聞かせをしたりしています。自分で育てる「苗のお買い物」に向けての準備として、園から種苗店に必要な苗の本数を伝え、苗の代金を子供が自分で支払えるように、予め保護者から集金しておくようにしました。

お買い物の日。年長児全員で、自分の育てたい苗を地域の種苗店へ歩いて買いに行きます。「何の苗がいりますか？」と、おじさん。「パプリカの苗をください。」と、自分の欲しい苗を伝えます。おじさんは「はい。はい。大きくなるからな。土に水をやってな。葉っぱじゃなくて根っこが水を吸うからな。はいどうぞ！」と、苗を入れて、一人一人に丁寧に接してくれます。

また、苗の種類によっては成長の遅いものもありました。その苗を手渡す時に「今年は天候が悪いから、オクラの苗が小さいんじゃ。今は、小さいけど、大きくなるからな。大事に育ててな。」とおじさんは声をかけてくれました。初め小さな苗を見た時はしょんぼりしていたAちゃんでしたが、その言葉を聞くと一瞬にして表情が明るくなりました。

子どもたちは、おじさんが自分のために苗のことを教えてくれていることを自覚し、うなずきながら話を聞き逃さないように一生懸命に聞いています。そして、手作りの入れ物に苗を入れてもらうと、どの子も「ありがとう。」と、お礼を言っていました。

苗を持ち帰ると、事前に本で調べていた野菜の土の作り方を思い出しながら、自分たちで土を配合し、植木鉢に土を入れて苗植えを済ませると、おじさんから言われたように、葉っぱにかけるのではなく土にたっぷりと水をやっていました。

苗が大きくなると、自分の育てている野菜の成長を絵に描きました。野菜の育ちを正確に描こうとする子もいれば、願望も交えた想像の実を描き足している子もいました。保育者は子どもたちが自分の苗を大事に育てている実態から、大きくなって欲しいと願う気持ちを理解し、それぞれの表現を認め保育室に展示していました。

夏野菜が実り始めた頃、年少児が自分のミニトマトを摘んでいる場面に直面した年長児がいました。園長先生がその成り行きを見つめていると、「本当は、採ったらいけんので。でも、あげる。」と、優しく接している年長児の姿があったそうです。自分がしてもらったように、年下の子どもに優しく接し、年長児になった喜びを感じているようでした。

年少児の時に、周りの人から優しくしてもらい安心感をもって生活を過ごせてきたことを、今度は自分が与える立場で生かしています。子どもの生活が幼稚園という小さな社会から地域へと広がっていく活動の中で、どのような育ちを見出せるのかと、夢がふくらみます。

協力園
認定こども園
ひめやま幼稚園

社会生活との関わりを育む環境構成のポイント

- 自分で育てたい野菜を決める話し合いの場をもつ。また、事前に店主と打合せ、子どもが自分で苗を買う体験に繋げる。
- 絵本や図鑑、店で聞いたことなど、必要な情報を取り入れられるようにする。土作りからすることで、愛着をもって世話をし、実を付ける満足感を味わわせるようにしていく。
- 気付きや驚きを絵で表現したり、友達や保育者、年下の友達に伝えたりしながら、育てている苗への関心を高めていく。

事例から見られる10の育ち　自立心

自分たちで主体的に野菜を育てる活動となったからこそ、年少児に野菜をあげるという気持ちも生まれたのではないか。

勝手に摘んではいけないことは分かっているし、せっかく育てて実ったのであげたくないが、自分も優しくしてもらった経験や、年長児としての自覚、枯らさないで育て上げた達成感などの気持ちとの葛藤の末、「採ったらいけんので。でも、あげる」と、自分で判断し、言葉をかけたと思われる。

事例から見られる10の育ち　社会生活との関わり

子どもたちは自分で苗を買い、土を作り、育てる活動で、地域の種苗店のおじさんと関わっている。

丁寧に接してくれていることを自覚しながら必要な情報を聞き漏らさないように丁寧に聞いたり、感謝の気持ちを伝えたり、活用したりしながら、苗を育てた。立派な実を付けたことに達成感を味わうとともに、頑張ってあげたくなった自分や年少児に優しくしてあげられる自分に気付き、自己肯定感をもつようになったと思われる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「１０の姿」

道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	自立心

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。